シンポジウム「地域力・女性力を活かして男女共同参画推進」

日　時：平成 22 年 1 月 31 日（日）午後 1:00～4:10

場　所：奈良女子大学講堂

主　催：内閣府・男女共同参画推進連絡会議・奈良女子大学

後　援：奈良県・奈良市

参加者数：138 名（女性 82 名、男性 56 名）

プログラム

・開会の挨拶　野口　誠之（奈良女子大学長）

・基調講演

高市　早苗氏（衆議院議員、元内閣府特命担当大臣〔男女共同参画等担当〕）

『国政の現場から見る日本の男女共同参画』

・パネル討論

『あなたの力に、あなたの力を！ー仕事と地域社会に活かす女性力ー』

コーディネーター　加藤　雅子氏（奈良県くらし創造部男女共同参画課長）

＜話題提供＞

上田　理恵子氏（（株）マザーネット　代表取締役社長）

「子育てから子育て支援会社起業へ」

河井　規子氏（木津川市長）

「行政への女性参加」

竹平　均氏（日本労働組合総連合会奈良県連合会　会長代理）

「均等待遇とワーク・ライフ・バランス」

矢田　紫真子氏（NPO法人「Salon de kid's　ネット」理事長）

「子育て中の子育て支援の輪」

・閉会の挨拶　野口　哲子（奈良女子大学副学長）

・総合司会　　富﨑　松代（奈良女子大学男女共同参画推進室長）

【シンポジウム概要】シンポジウムでは手話通訳が行われました。

主催者として、野口誠之学長から、平成 21 年5月に創立百周年を迎え、創立以来、多くの女性人材を輩出してきたこと、本学は男女共同参画社会の実現へ向けて、教育・研究・運営等のあらゆる場面で様々な取り組みを行っていること、更に、地域の力・女性の力を活かして男女共同参画推進を進める方策について、一緒に考えていきたい旨、開会の挨拶が述べられました。

高市早苗氏（衆議院議員、元内閣府特命担当大臣「男女共同参画等担当」）による基調講演「国政の現場から見る日本の男女共同参画」では、現在の活動の原動力や断念せずに活動を継続することができた理由、国政に参画し、大臣を経験して見えてきた日本の男女共同参画の現状や国の施策等について、次のような多くの項目について講演して頂きました。

・「チャンスの平等」が大切であること。
・女性で国政に携わる人は少なく、女性議員というと、専門分野は、福祉、環境、男女共同参画や子育てと思われているところがあり、「女性枠」として扱われることも多いこと。
・第二次男女共同参画基本計画が策定され、いくつかのポジティヴアクションも進められているが、これらは過渡的なものであ り、目標が達成されたら、自分たちでしっかりやっていくことが大切であること。
・ワーク・ライフ・バランスに関しては、既存の子育て支援策の運用改善、見直しが必要であること。第3期科学技術基本計画で は女性研究者を増やすことを打ち出しており、自宅からのテレワークなどを増やす試みがあり、IT を活用して在宅勤務を可能 にするシステムの構築が進められているが、一方で、育児休業や労災は在宅勤務を想定していないので、問題が多いこと。
・政策を進める上で、一番の問題は、制度があっても十分に周知されていないこと。
・今年から変わる法律として労働基準法が改正されること（妊娠中の深夜労働などの禁止。違反すると懲役または罰金がある）。
・今後、多くの人が注目している法律案として、夫婦別姓、非嫡出子などの内容を含む法案のこと。

パネル討論は、加藤雅子氏（奈良県くらし創造部男女共同参画課長）をコーディネーターとして、「あなたの力に、あなたの力を！ －仕事と地域社会に活かす女性力－」をテーマに行われました。以下に各パネリストの講演の概略を紹介します。

上田理恵子氏（（株）マザーネット代表取締役社長）による「子育てから子育て支援会社起業へ」では、大学卒業後、就職、結婚、出産を通して感じた当時の働く女性を取り巻く社会状況の話。ご自身の会社勤め時代

に得た辛い経験から、「働くお母さんを支援したい」と「（株）マザーネット」を設立された経緯。創業後に、働く女性達を取り巻く環境やそのニーズが多様であることが見えてきて、それぞれに対して細やかな支援を心がけていること。一方、働く女性も、自分自身の中で、出産・子育てをしながら働くのは何故か、自分のとっての理由、社会にとっての理由を明確にすることが大切であるとのこと。そして責任ある仕事についている女性の増加に伴い、育児と介護問題が同時に生じている現状についても話されました。

河井規子氏（木津川市長）による「行政への女性参加」では、ご自身の生い立ちからお話をされ、人生の大転機として町議会の議員となったこと。議会での男性の目は冷たかったが、人の役に立ちたいという思いで夢中でやってきたこと。少しずつ委員長などを経験することになり、町長の辞任に際し、まちに対する抑えきれない熱い思いを胸に町長選出馬を決意した。男性の目には厳しいものもあったが、その後3町の合併があり、木津川市の初代市長となった。大きなプレッシャーやストレスもあったが、常にプラス思考でやっている。信念を持って進めば道は開けると思っている。判断の基準としては私利私欲を外すこと、自分たちの決定が子どもたちの将来に影響するのだということ、今の人たちも大切だが、将来の世代も大切だと思うこと、子や孫の世代に負担を残さないというのが私に課せられた使命だと思っている、と女性市長としての力強い言葉で締めくくられました。

竹平均氏（日本労働組合総連合会奈良県連合会会長代理）による「均等待遇とワーク・ライフ・バランス」では、これからは女性参加の視点がなければ成立しない時代。しかし年収 103 万円以下で労働している女性が多く、女性の労働が社会の支え手になっていない。一方、男性は仕事中心の生活で子育てに割く時間がない。家庭でも、家事育児の分担を進めていくことが大切で、社会でも助け合う土壌がなくなっていることも問題である。これらの状況を変えていくには、女性リーダーが出て行くことが大事で、そのためのセミナー等も開催しているというお話をうかがいました。

矢田紫真子氏（NPO法人「Salon de kid's ネット」理事長）による「子育て中の子育て支援の輪」では、子育て経験を踏まえて現在の仕事へつながった流れなどを講演して頂きました。もともと保育士であったが、自分の子どもをもってみて夜泣きの体験をする。子どもはかわいいが、夢見ていたことをやってあげたい半面、できないことも多く落ち込んだ。天理市の育児教室に参加して、母子とふたりきりの生活よりも、他の人と触れ合うことが大切だとわかった。終わってから、こういったサークルを作ることを進められた。しかし自分は人の前で話すことが苦手である。勇気をふりしぼって他の母親に声をかけたところ受け入れてもらえた。部屋を借りるのに怖い自治会長と対決。一途の思いをぶつけると希望が通った。これが始まりとなって子育

て支援サークル Salon de kid′s ネットを設立。また、夫を通じて、父親同士のつながりを形成していった。現在、子育て中の方と子育て支援の輪を広げているとのお話をされました。

4名のパネリストによる話題提供の後、参加者に質問票に記入して頂きました。パネル討論の後半は、質問に答える形で進められました。質問の数は 30 以上あり、参加者の熱意がうかがえました。時間的な制約から、すべての質問に応えていただくことはできませんでしたが、回答の一部を紹介します。全員に対する質問として、リーダーとして心掛けていることは何か、ご自身の活動を支えているものは何か、ご自身のワーク・ライフ・バランスとどう向き合っておられるかといったものがありました。

上田　理恵子氏

会社を運営していくために大切なことは、何のために創業したかを忘れないこと。働くママにやさしい社会を作りたいという思いが自分を支えており、会社を創業した理由でもある。働く女性の要望にもいろいろあるので、それぞれの方とコミュニケーションをとり一番欲しいものを提供することが大切。中小企業だからきめ細やかな事業ができるし、していきたいと思っている。自分のワーク・ライフ・バランスについては、物事に常に優先順位をつけて実行しているとのこと。

河井　規子氏

政治の場に女性が入ることによって、女性の視点からきめ細やかな意見を出すことができるようになった。トップとして心がけていることは、ひとつずつ実績を積んで、周りの人に認めていただくこと。自身のワーク・ライフ・バランスについては、休んだのはお正月くらいであるが、休みの日も市民との触れ合いをしたいという思いがあり、これは自分の役割と心している。

竹平　均氏

リーダー層として心がけていることは、しっかりと話を受け止めて聞くこと。ひとつひとつ風景を変えていくことが意識改革につながっていくと信じ実行している。

矢田　紫真子氏

自分を支えているのは、自身の経験を通じて、母親を輝かせることによって、家族も元気にすることができるという思い。母親の元気につながる原動力になればと思っている。若い人へのメッセージとして、人生にはいろいろな壁があるが、思うことを貫くことが大事。失敗を恐れて何も動かないというのはよくない。学校教育でもっと男女共同参画の精神を伝えてほしい。自分自身は話すことが好きで集うことが好き。楽しみながら仕

事をしている。

加藤雅子氏（コーディネーター）による、女性は課題は多いが、解決策も作っていけること、ネットワークをそれぞれの場所で広げていってほしいというメッセージで、パネル討論が終了しました。

野口哲子副学長の閉会の挨拶では、女性力を実感したことや、講演者、パネリストへの謝辞、手話通訳の方々への謝辞が述べられました。

参加者は、講演者やパネリストから力をもらい、それぞれの場で男女共同参画を推し進めていこうという思いを新たにしていただけたのではないでしょうか。当日は寒く雨模様にもかかわらず、一般市民の方、民間の子育てサークルの方々、大学の教職員や学生など、多様な方々が参加してくださり有意義なシンポジウムになったと実感しています。